



これは、ほとんどの愛用馬  
山開天童産 源兵衛清安書  
御蔵島つげ周り馬

人気の駒6書体  
錦旗(ぎんぎ)  
巻(まき)湖(うみ)まきのりょうこ  
水無瀬(みなせ)  
源兵衛清安(げんべいせいあん)  
宗歩好(そうほこう)

**駒のせい法4種** ~これ知らないとはまらない~

- 書き駒** 駒木地にうるしなどで書体を書いたもの。
- 周り駒** 書体を駒木地にはず、印刀で文字を周りに、その周りに、ハゲなどでうるしを入れたもの。
- 周り埋め駒** 周った文字をセリうるし(のこ)うるしをまけたもので埋め、とき出したもの。
- 盛り上げ駒** 周り埋め駒に、さらに筆でうるしを盛り、駒の字を書いたもの。最高級品。

**出石流盛り上げ駒の作り方**

パソコン操作を得意とする吉岡さん。書体をとことん好みの字形に加工してから、字母紙に印さす。それを駒木地にはずし、印刀で周りにセリうるしを埋め、とき出した。筆でうるしを盛り、完成!

出石流のポイント  
たくさんあるよ。やっぱり、字形の美しさ。思わず「うっとり」

**天才駒師 吉岡出石新聞**

令和元年 8月 小石洋輔  
川え石大

**吉岡さんにインタビュー**

- Q1 駒師になつたきっかけは?  
そんけいする大山康晴15世名人の馬駒の書体があることを知り、どうしてその盛り上げ駒がほしくなつたか。ないのであれば自分で作ってみたいと思った。
- Q2 馬駒の作り方を学んだのはどこ?  
松山市の松本光泰さんという彫り駒師に手ほどきを受けて、それからは独自で研究。
- Q3 盛り上げ駒師はどのくらいいるの?  
全国でわずか50名に満たない。そのうち四国ではたったの3名!
- Q4 これまでに作った馬駒の数は?  
約150組。地いさで多くのボウフラを食しているために、製作時間が限られている。
- Q5 1組完成までのせい作期間は?  
約1ヶ月。うるしの中が完全に乾くまでにさらに1ヶ月かかるので完成までに2ヶ月の期間が必要。
- Q6 せい作して苦勞することは?  
うるしのあつた。日本の気候は、うるしのコントロールがむずかしい。また、エはうにまじさなほこりとの兼ねも大変だ。うるしに入るとすべていぬいに取りのぞかないといけない。
- Q7 駒師としてのやりがいは?  
問題にぶつかっても、あきらめずに自分で解決していくと必ず、得のいい馬駒ができてくる。そこにやりがいを感じる。



これが吉岡さん愛用の印刀! 左手に持っているのは駒木地。盛り上げ駒には、この伊豆諸島にある御蔵島のつげし使用されないのだ。

駒師吉岡出石さんの歩み  
二〇〇八年春 自作駒によう戦  
二〇〇九年二月八幡浜市保内町の戦  
二〇一〇年三月 将棋大会において  
二〇一一年三月 将棋大会において  
二〇一二年三月 将棋大会において  
二〇一三年三月 将棋大会において  
二〇一四年三月 将棋大会において  
二〇一五年三月 将棋大会において

**吉岡出石さんの世界**

2015年、羽生善治名人に行方尚史8段が、ちやうど戦った名人戦第2局で使用された駒。書体は水無瀬。タイトル単独で自作の馬駒が選ばれること馬駒師にとり、大きなことなのだ。

八幡浜市と大洲市にまたがる出石山から取ったもの。愛するふるさとでこれからはさらなる作品を生み出そうという気持ちでがんばる。

**感想**  
四時間以上におわる長時間の取材に付き、含んでくださった吉岡さん、親切で丁寧な説明を聞きながら駒への情熱がたくさん伝わってきました。盛り上げ駒を作るには、高い技術が必要だし、根気、体力も欠かせない。いい作品を作り上げるためには吉岡さんは、つねに研究心をもち、手間をおしむこと、なく取り組まれていることがよく分かった。また、今回の新聞作り全体を通して、手作り駒はほろほろの職人としての意気込みがあらわに感じられることも分かった。ぼくも今持っている彫り駒をこれからは長く大切にしたい。そして、この目かほくもあつた吉岡さんの作品を手にとり取ってみたい。

吉岡さん、ぼくは何年でも待ちます。協力ありがとうございます。

現在予約して3年待ちという出石の駒(写真左)



左が吉岡さんの作品。よく比べてみてほしい! 文字の糸脚のさや流れがちやうのか分かる。これぞ吉岡出石の盛り上げ駒だ!



乙未八部作水無瀬

このよな古い馬駒の修理もいらがあれば引き受けている。



川え石地区で将棋教室のこう師匠されている吉岡さんは将棋のうでもすごいのだ! 50年近く前に4段を取られている。

やっぱり強い 大石負けました



吉岡さんの活けふりをしょうかしている書せきやさし、DVD多数! みなさんぜひお取ってほしい。そのすごさが分かるはず!

